



南側の道路に面して緩勾配の屋根とし、低い軒先ラインを強調 北側は垂木構造をあらわした勾配天井の居住空間



建物内部に灯りがともると、玄関の格子網戸、リビングの格子壁、和室の障子から暖かい光がもれる 玄関は米杉の板戸と格子網戸の開閉のバリエーションで風通しや戸締まりを確保

# 南砺市の家

砺波平野に建つ夫婦二人のための平屋住宅

敷地は、新設される南側の市道と既存の北側の道路に挟まれた東西に細長い三角形の形状である。夫婦二人が住むための居住スペースと、正月などに子世帯家族が集まつたときの広いスペースを求められた。散居村の風景が残る地域であるが周辺は宅地化や工場の建設によって田園風景は失われつつあり、本計画も市道の新設による住宅の移転建替えである。

設計にあたり、田園風景の中に建築のボリュームと形態が突出しないよう色彩とプロポーションを抑えた建築とした。外壁はガルバリウム鋼板の一文字葺き、正面と屋根は立てハゼ葺でメンテナンスフリーの材料、人が建物に接することの多い玄関ポーチ廻りはジョリパット塗の左官壁と板張りで表情のある素材としている。

新設される南側の道路からの視線や騒音を考慮し、北側に垂木構造を表した勾配天井のリビング空間と寝室を配置し、南側には1間の奥行きの縁側を設け緩衝スペースとしている。また、南向きのハイサイドライトで空へ抜ける視線と通風・採光を確保している。

積雪の多い地域のため屋根雪は敷地背面の空地に落とし、アプローチには屋根のある広い空間を設けると共に、車庫内からも住宅に入ることができるようになっている。この地域での主な交通手段は自家用車で、家族の実質的な玄関は車庫となるため、車庫内から玄関へ繋がる内玄関を設けている。

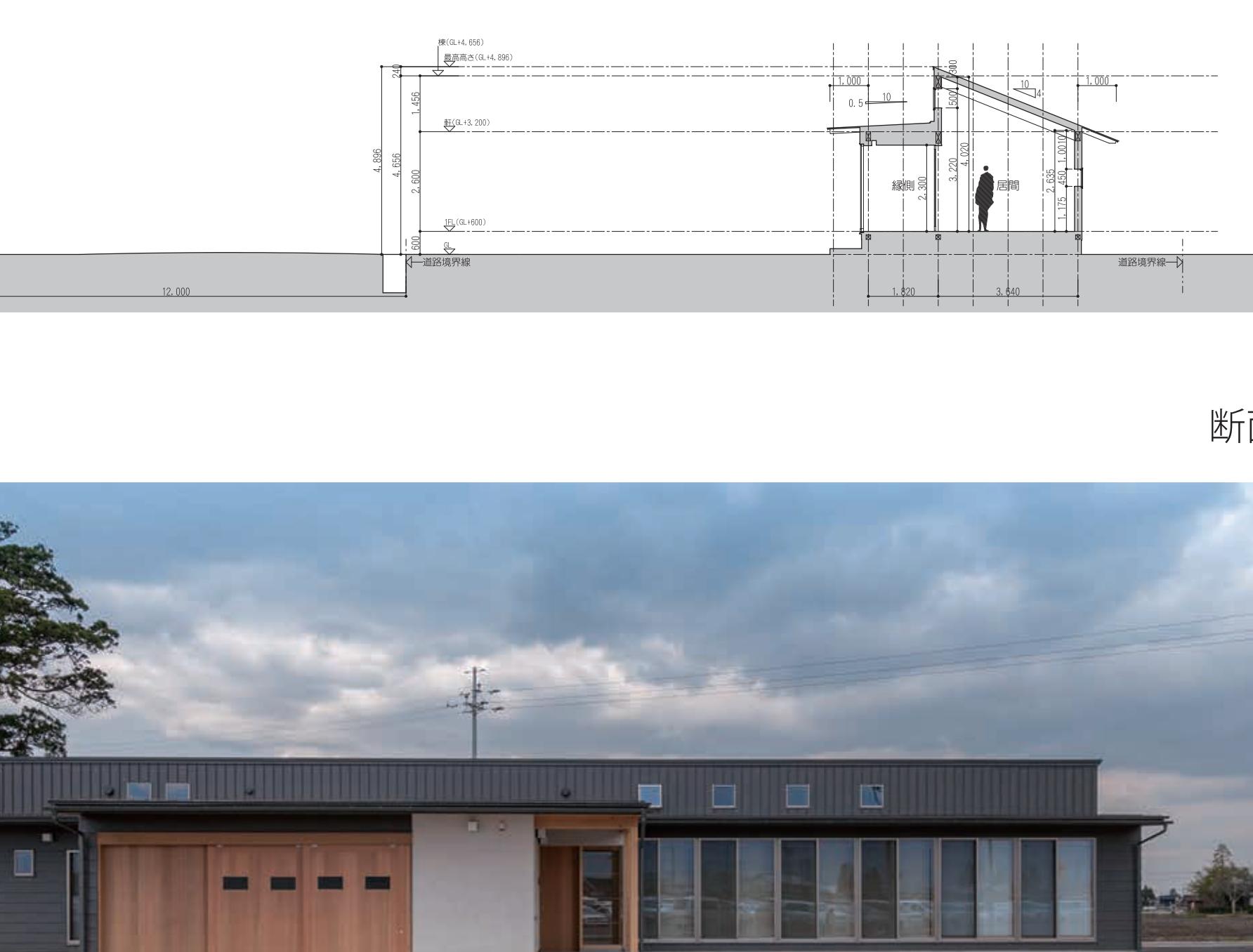
玄関は主に来客用の出入口となるため、リビング前面の縁側から連続する玄関ポーチが取り囲む前庭は、来客など外部の気配を建物内から感じられるができる空間となっている。縁側の一部はたたみ廊下となり、仏間の続き間として利用できる。縁側は廊下としての通路空間、リビングの一部としての居住空間、地域コミュニティに開かれた軒下空間として機能している。

玄関、リビング、縁側、仏間の各引戸は、板戸、格子戸、ガラス戸、障子戸など数種類の建具を使い分け、建具の開閉によって内部と外部、部屋相互の空間の繋がりを調整し、多様な空間が展開するようになっている。

設計監理：家山真建築研究室



平面図



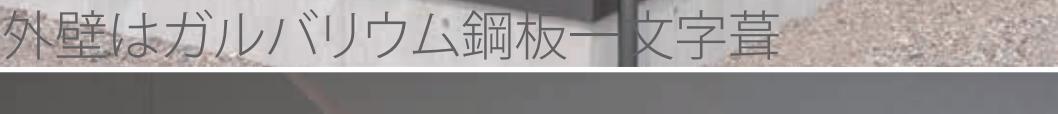
断面図



リビングと縁側 正面はたたみ廊下の飾棚



建物正面



外壁はガルバリウム鋼板一文字葺

リビングから玄関の気配を感じるガラススリット

玄関ホールの引戸を開けると縁側に続く

リビングから遠方の山並みを見る

仮間からたたみ廊下を見る 太鼓張りの障子は壁内に引き込み一体空間となる

リビングから玄関の気配を感じるガラススリット

たたみ廊下 障子を開け仏間に続く

仮間

寝室

仮間からたたみ廊下を見る 太鼓張りの障子は壁内に引き込み一体空間となる

リビングと縁側の間に格子を入れ、外部からの視線をコントロール

リビングと縁側の間に格子を入れ、外部からの視線をコントロール

リビングと縁側の間に格子を入れ、外部からの視線をコントロール